事業完了報告書

提出日：2022 年 3 月 31 日

1．事業概要

（1）実行団体名：特定非営利活動法人　海の達人
（2）事業名　：　障がい児等の体験格差解消事業
（3）事業実施期間：2020 年 4 月～2023 年 3 月
（4）資金分配団体名：公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑ 完了　／　☐ 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2） 整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☐ 全て公開した　／　☐ 一部未公開　／　☑ 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。 ・HP 修正を外部委託のため、公開時期が延びている。2023 年 3 月末日までに公開予定。
（3） 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐ 変更があり報告済　／　☐ 変更があったが未報告　／　☑ 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1） 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい　／　☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。

（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑ 内部に窓口を設置 ／ ☐ 外部に窓口を設置 ／ ☐ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☐ はい ／ ☑ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。
（7） 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☑ 外部監査 ／ ☐ 内部監査 ／ ☐ 実施予定もない ※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☐ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している ☐ 報告書に表示している ／ ☑ イベント実施時に表示している ☐ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	第 15 回バリアフリーまつりでは、中日新聞、中部経済新聞、三重タイムスへ掲載されました。
広報制作物等	有	セイラビリティ体験会の案内チラシ。 第 15 回バリアフリーまつりチラシ、行政等への企画書。
報告書等	有	第 15 回バリアフリーまつり報告書。

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

コロナウィルス感染拡大により多くのイベントが中止となり、特に協力企業の新入社員は障がいをお持ちの方への対応を学ぶ機会が少なかった。その中でもセイラビリティ活動への参加や、助成金で購入させていただいた備品・設備の見直しを通して、配慮すべき項目を社員間で改めて考えるきっかけができた。
課題（反省）としては、バリアフリーまつりに重点をおいていたため、イベントが中止となった時に即座に新たな体験会を企画・実施することができなかった。またコロナにより本業であるマリーナ業が忙しくなり、体験格差解消事業の周知活動に時間をとることができなかった。
活動に携わるスタッフの確保も難しかったですが、三重大学に協力いただいたことで、新たな支援の可能性を見出すことができた。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5 枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）
それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

●活動写真

2022 年 10 月 1 日、2 日に第 15 回海のバリアフリーまつりを 3 年ぶりに開催。2 日間で来場者延べ 880 人。天候にも恵まれ、盛況なうちに終了した。参加者からは「また、こうして開催してもらいうれしい。」「障害があってもこのようなイベントに参加できて、とても喜んでいます。」など、多くの喜びの声が聞けたイベントとなった。

海のバリアフリーまつりの乗船受付。多くの人たちが並んだが、スマホでの事前受付なども導入。カヌーには連携する三重大学の学生がカヌーの上げ下ろしなど、大変なところを担当した。